

## 実践例「学習指導の深化・充実」

### 「課題8 地域に根ざした学習内容の改善・充実」

～地域内外の異校種連携や交流学習等による新たな学習内容～

#### I. 学校名 えりも町立笛舞小学校

#### II. 交流の概要

昭和40年、当時の帯広市長がえりも町に釣りに来た時、当校の職員と知り合いになり、それが縁で小学生が帯広市に招待されたのが交流の始まりである。その後、帯広市長の提案で「帯広の同規模の学校と姉妹校になって、山の学校と海の学校が交流をして見聞を広める」ことを目的に、昭和46年より帯広市立広野小学校との交流が始まり、今年で47回目を数えている。

お互いの学校を訪問するのは隔年で、地域の産業に触れ合う体験を行なっている。

〔主な体験活動〕

○広野小の場合～トラクター乗車、大型機械の紹介、ジャガイモ掘り、ソーセージ作り、搾乳体験等

○笛舞小の場合～潮干狩り(磯遊び)、地引網、昆布干し体験、乗船体験等

体験内容は時期、人数、天候等も考慮して、それぞれの学校が趣向を凝らして考えている。児童は、何よりもこの行事を楽しみにしており、親子3代に渡って体験している家族もあるなど、学校行事として切っても切り離せないものとなっている。

交流当初は体験活動やゲーム等の交流が主な内容であったが、現在は、総合的な学習の時間に調べた内容(地域の産業や自然のこと等)を発表しあい、お互いの地区の特徴を交流している。両校の児童は、自分の地域のことをわかってもらおうと真剣に調べ活動を行ない、発表の工夫も考えている。

#### III. 実践例

##### 【 第47回広野小学校・笛舞小学校交流学習会 】

##### 1. 目的

- ①両校児童の交流を通して、友情と信頼の心の教育を図る。
- ②「海辺の町」と「山あいの町」それぞれの地域の特徴を実際に体験することによって、自分達の住む地域をより深く理解し、郷土を愛する心の育成を図る。
- ③保護者同士の交流を通して、お互いの親睦を図るとともに、水産業や農業について理解を深める。

##### 2. 期日 平成29年6月22日(木)～23日(金)

##### 3. 交流内容

- 〔1日目〕 歓迎の集い、自己紹介、校歌交換、地域の紹介(調べ学習の内容)、交流、夜の集い等  
〔2日目〕 搾乳体験、トラクター試乗、ピザ作り(お互いの地区の食材を使って)、お別れの集い

#### 4. 今年度の活動から

①広野小学校からの提案で、スカイプを使って児童の交流を行いました。昨年度までは、手紙の交換が主な方法でしたが、ICTの活用を図る目的もあり、今年度初めて実施しました。画面を見ながら会話を楽しむ事やお互いの学級のことを紹介しましたが、両校ともブルゾンちえみのマネが被ってしまい大笑い。(同じことを考えていたのですね)



#### ②活動の様子から

ア 広野小学校の発表は、広野の農業についてでした。1日の仕事内容、作っている農作物の種類、農業で使う器具を実際に見せて、何に使うかクイズ形式で行ないました。また、学校に隣接する八千代牧場の牛の事や祭りについても説明がありました。



笛舞小は、5年生がアイヌ文化(道具、家、衣服等)について発表し、アイヌの踊りも披露しました。6年生は、えりもの緑化事業(植林の歴史)についての発表をしました。

イ 二日目は搾乳体験。えりも町に肉牛はいますが乳牛はいません。牛舎の機械、乳牛の大きさ、そして乳搾りと何もかもが初体験でした。お昼からは、専門の方からピザ生地の作り方を教わり、お互いの産物(広野はアスパラ・ベーコン、笛舞はツブ・カニ)をトッピングしてピザを焼いて食べました。



ウ 大きな声の自己紹介、両校歌の披露、40年以上もの間歌い継がれた「ともだちの歌」の合唱、お別れの集いの後の記念写真撮影等、どれも感動的な内容ばかりです。3年後には交流50年の節目を迎えます。



#### 5 成果と課題

- ①交流の開催に当たっては、保護者、地域の協力無しには実施できません。食材の提供、お土産作り、引率のお手伝い等、地域あげての交流となっています。
- ②子どもたちの調べ学習にも力が入ります。総合の発表を広野小でもやることが決まっているため、説明の資料の作り方、説明の仕方にも工夫がなされています。
- ③十勝地方の大規模農業(畜産・畑作)を間近に感じることができました。大型の機械を何種類も見せていただきましたが、その大きさ、値段にびっくりしました。百聞は一見にしかずです。
- ④節目となる50回目の交流では、これまで関わってきた方を招待する等、式典等を考えています。